

連休中の行仙宿への来宿舎の対応と作業(その4)

・モノレール駐機場の資材荷上げと設置工事及び行仙宿巡回

◇実施日；平成28年5月07日(土) 晴

◇参加者；児嶋道夫、沖崎吉信、畑林秀味、畑林清子、橋本 梓

5名。

連休最後の8日(日)に行仙宿に向く予定も、児嶋さんからモノレール屋根工事の資材調達もほぼ段取りつけた。

8日は、茶摘があつて、7日(土)に資材荷上げと基礎部分の一部をやると連絡が入る。

8日を7日に変更し、皆さんにも協力を呼びかけ5人が出向く。児嶋さんは、トラックで実家の小森に立寄り資材一部を積み、行仙補給路登山口で9時半過ぎに合流した。

今日行仙宿で一泊する梶野君は、早く到着しM機を下まで降ろしてくれていた。

重さでは、一回で積載可能なれど、単管パイプや垂木などの長物がある為、二回に分けてM機で荷上げした。

小型ではあるが発電機もある。これらを肩で上げるとなれば、5人で3回か4回位往復することとなる。いやはや楽である。

荷上げ後、梶野君は今日旧通信道で作業中の青木、山口ご両人に昼弁当を届けるため先行。

畑林(秀)君に児嶋さんのサポートをお願いして、沖崎、橋本、畑林(清)の3人も後を追いか行仙宿へ。浦向分岐三叉路からの荷上げも、これも又大変楽ちんである。

連休中の来宿舎の対応も実質終了した感じで、青木・山口ご両人によりきれいに片付けられていた。

笠捨山の捲き道(旧通信道・鉄塔巡視路)作業中のご両人激励と

手伝いも必要かと思ひ、作業現場へ向け出発する。

奥駆道合流地点から10分も歩いたか、何やら人の声、すぐ三人と合流する。

聞けば、大ハンマーの柄が折れてしまい作業にならず、引あげるとのことであった。

旧通信道の改修・補修作業は、一部を残し略完了したとのこと御苦労様でした。

行仙宿に戻り昼食。これと言った事もせず、モノレール駐機小屋の屋根工事の現場に戻る。

現場では、く字型のパイプを3本立てる為の基礎部分が略完成していた。後は急勾配の支谷で足場最悪。児嶋さんもいっになく、ヘルメットを着用している。

パイプに穴を開けたり、切断の作業も大変であるが、児嶋さんの一人舞台で、大半が手際よい作業を見ているだけの状態だ。

今日の予定を終了したが、今後垂木取付けやトタン打ち作業、この足場でどうやってやるのか・・・。

まあ何とか事故、トラブルも無く、本日の予定を終了したが、最後まで気を弛めず安全第一でお願いしたい。

この日行仙宿に立寄った登山者から、俱利伽羅岳辺りで拾った動く卵を託けられた。上手く孵化するかしないか、卵はキジか山鳩かふくろうか・・・児嶋さんに託した。

持帰り孵化させる事が出来たかどうかの結果は、又報告します。

(記 沖崎)